

優秀賞

百人一首を活用して 言葉と文化にふれるゲーム

増村 賢二（社会人：石川県）

日本人にとって最も長く親しまれ、脳に刻まれているであろう言葉の集合体、その一つが「百人一首」。子供の頃は学校で学ぶ機会があっても、大人になるとなぜか専門的な「競技かるた」となり、せっかくの美しい言葉の並び（和歌）や古の文化が多くの人の記憶の片隅に追いやられています。

そこで、「百人一首」を活用し「言葉遊び&文化再認識」を図りつつ、高齢者にとっては簡単な「脳トレ」ゲームになる遊び方を提案します。

世界でもこれほど長い歴史を誇るカードゲームはあるでしょうか？ゲームを通じ、もっと「百人一首」を世界にアピールしてもいいかもしれません。外国の方にも美しい日本語を知ってもらい、文化に親しんでいただくゲームとなります。

【ゲーム内容】

ゲームのイメージは「花札」です。また競技かるたのように和歌を覚える必要はありません。和歌に綴られた言葉を見ながら「7つのキーワード」に当てはまる言葉を探し、選んで得点を稼ぐ単純なゲームです（添付資料をご参照ください）

このゲームのポイントは、百人一首という誰もが一度はふれたことのあるものを題材としていることです。全く新しいものだ、と、年配の方は抵抗を感じることもあります。その点、百人一首であれば抵抗なく入っていただけます。しかも「この和歌なら、なんとなく覚えている」といったように過去の記憶を呼び覚ますこともできるかもしれません。つまり高齢者の認知症予防にも役立つかもしれないゲームとなります。

【7つのキーワード】

キーワード「四季」「自然」「生き物」「天候」「朝と夜」「感情」「地名」とし、それぞれに得点を設定。

「四季」なら1点、「地名」なら7点と差が出るようにした場合、

例えば「秋の田の かりほの庵の 苫を荒み 我衣手は 露にぬれつつ」という和歌で考えると、「秋」がキーワードの「四季」に適合するので1点を獲得できるという仕組み。

このように言葉がどのキーワードに合うか探しながら得点を重ね競い合う…そんな遊び方です。